



# シュクラン日記 ～No. 8～

2022. 3. 1

## アブダビの道場が新しくなりました！！

Before



New!!



アッサロームアレイクム！こんにちは！

2月といえば節分やバレンタインデーが思い浮かびますが、建国記念日や天皇誕生日も2月の重要なイベントですね。正直、日本好きの生徒に「建国記念日おめでとう」と言われるまで、建国記念日だということに気が付きませんでした…。海外にいると「相撲したことある？」「このアニメ知っている？」等、日本文化について聞かれることが多々ありますが、実際知らないことや体験したことのない物も沢山あるなど感じる今日この頃です。せっかく海外にいるのだから、日本文化の知識も深めて発信できるような人になりたいですね。

さて話は変わり・・・2月下旬の出来事なのですが、いつものように練習に行くと、「今週から柔術クラスが始まるから、柔道の練習場所と曜日を変更して欲しい」と施設のマネージャーに言われてしまいました。最初は変更させられることに不満を感じましたが、移動先の部屋を見させてもらうと、たくさんのウエイト器具が保管されていたので、器具を自由に使ってもいいという条件で移動することになりました。ウエイト器具を使えるのは大変有り難いです。今後は筋力トレーニングやサーキットトレーニングも取り入れながら練習のバリエーションを増やしていこうと思います！！

## 2月の活動報告

2月12日にフジャイラで12歳以下の子供たち向けの柔道イベントと、15歳～17歳(Cadet)の大会が行われました。実はUAEでは12歳以下の大会は行われませんが、大きな理由としては怪我への配慮があるそうですが、勝ち負けにこだわらず柔道を楽しんで欲しいという思いもあるようです。とはいってもイベントの内容は簡単な練習試合のようなものですが、最大限安全に配慮しながら、他の道場の生徒と練習試合を通して柔道に対するモチベーションを高める狙いがある他、審判からルールの特講もあり、ルールを正しく学ぶ場にもなっていました。試合時間の計測も無く、なんとなく頃合いを見て試合を終了させたり(1～2分程度)、例えば綺麗に一本で投げても、試合を継続させたりと、審判、コーチ、子供達、保護者全員が楽しみながら取り組んでいました。



また上の写真を見て頂くと、白いテープで試合会場を分割しているのが分かると思います。日本だと子供の試合ではよく目にしますが、これをUAEで取り入れたのはフジャイラクラブ(FMAC)のモー先生だそうです。彼が東海大学のコーチングセミナーのプログラムで少年柔道の審判をしたときに、白テープで会場を区切っているのを見て、UAEでも取り入れようと思ったそうです。「日本のアイデアは面白いね。」とモー先生が話してくれました。モー先生はいつも視野を広げて学ぶ姿勢を生徒にも見せています。そんな姿に私自身学ぶことが沢山あります。

モー先生



またイベント後は参加した子供たち全員に金メダルが贈呈されました。初めてメダルを貰った生徒も多く、子供や保護者から笑顔があふれていました！！



さて子供たちのイベントが終わった後は、15歳～17歳(Cadet)の大会が行われました。こちらの大会に関しては心から残念に思うことができました。

私がアブダビで指導している選手が決勝まで進んだのですが、決勝戦では残念ながら負けてしまい、「残念だったね。次は勝てるように頑張ろうね。」と声を掛けると、「試合前にコーチから負けるように言われたんだ」と言われました。その言葉の意味が良く分からず、よくよく話を聞いてみると、決勝戦では同じクラブの選手と同門対決となり、どちらが勝ってもクラブとしては金メダル・銀メダルの獲得が決まっているので、それだったらUAE国籍を持つ相手の選手を1位にしたいという方針

だったようです。他のクラブの選手にも話を聞いてみたところ、頻繁ではないがたまにそういうこともあるよと言われました。選手たちがフェアに戦えない状態をコーチが作ってしまっているのはどうなんだろうと思いますし、選手側が受け入れてしまっている状況も残念に思いました。チーム内で行われていることなので、なかなか踏み込むのも難しく、正直どのように改善していけばいいのか頭を抱えるところではあります。今回負けるように指示された選手に対しては、そういった指示は二度と聞かないように指導し、少なくとも私に関わりの強い選手たちに対しても同様に注意していこうと思いました。本当に残念な話ではありますが、このような裏事情に早い段階で気付けたことは良かったと思います。国籍に関わらず、フェアに試合が行われるようコーチ達とも今後話をしていきたいと思いました。

さて、今月の報告は以上となります。来月はヨルダンで開催されるアラブ大会に参加予定となっています。大会前に国内で1週間の合宿を行い、その後大会に出発する予定です。

最大限の準備をし、少しでも良い結果を持ち帰れるよう選手と共に頑張りたいと思います！

芦田 弘毅